

ハインツ 英国出身の元キリスト教徒

:

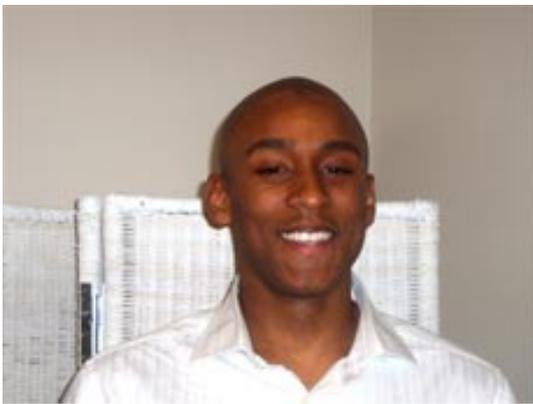
明:いかにしてイスラ ムが徐々に彼の心に浸透していったか。

目:[事新改宗者ムスリムの逸 男性](#)

より: サルマ クック

ED1 Jun 2015

集日 01 Jun 2015



アブドル=ハキ ム ハインツはロンドン南部で育ちました。彼は7 のときに、母 がイスラ ムに改宗したことをきっかけにイスラ ムと出会いました。

年、彼はエジプトに数年 滞在し、イスラ ムについての知 と共に、アラビア 能力を身につけました。

母 が改宗したとき、彼はまだ幼い少年でしたが、そのときから彼と兄妹は教会へ行くことからイスラ ムの 践にかじを切りました。これは彼にとって大きなショックでした。なぜなら、それまでに教えられてきたキリスト教の が彼にとっては心地の良いものだったからです。

当初、彼はイスラ ムを しい まり事の一式として捉えていました。彼は初めのうちは、それが受け入れ いものだったことを めています。7 にして、彼は礼 し、断食することが求められました。

また、アラビア を学ばなければならず、礼 したりクルア ンを んだりできるようにはな ったものの、その意 を理解してはいませんでした。

しかしながら数年 つと次第に れ、イスラ ムは彼の生き方そのものになりました。彼は その を振り返り、10代の少年として「人生とは何か」という疑 を持ち始めることは自然なことだったと述べています。

10代の荒れた日々を ごす中、イスラ ムの教えの持つ意味が彼の心を捉えるようになり、彼にとってそれはより受け入れやすいものとなりました。彼はまた、自身の人生においてイスラ ムが何を意味するのか理解し始め、より多くを学び始めると同 にイスラ ムに する正しい理解が深まっていきました。

ハインツはこう言います。「10代の前半のときは、ムスリムであることを じたものでした。学校でイスラミック スタディ を ったものの、それはヒンズ 教やシ ク教のようなものだ と教えられていました。」

イスラ ムとその追 者が、他者とは「なる存在」と なされていたことは、彼に影 を及ぼしました。中学校に入学する には、彼はイスラ ムと 付けられたくないと思い始めており、イスラ ムを心の奥底に じ めていました。

彼はそうした反 について 明します。「それは外的なプレッシャ によるものでしたが、同 に私は自分の信仰を正当化できるだけのイスラ ムについてのきちんとした理解をしていたとも言えませんでした。」イスラ ムに する社会的 は、彼が自分をムスリムとして表立たさることを 踏わせました。彼は一般大 の一人であることを望んでいました。それは人 性の自然な反 の 果に ぎません。こうした考え方は、彼が14 になるまで わりませんでした。

その年になると、彼はイスラムの 践法を え、他者へも表立ってムスリムであると主 できるようになりまし た。これは、彼がオランダ スペイン旅行をしたのがきっかけでし た。特に、 践的なムスリムたちとの出会いがあつたスペイン旅行は彼にとって重要なものとなりました。

彼はこう述べます。「私が れたスペインのムスリム コミュニティでは、私の世代の青年たちが宗教に して非常に 心を持っていました。それを た私は ずかしさを感じなくなりました。青年たちはイスラ ムを受け入れており、私はそれを らしく思いました。」

彼がスペインから英国に 国したときには、15 になっていました。学校では新学年が始まりましたが、以前とは って彼は内面からムスリムになっていたのです。彼は自信を持ってイスラ ムについて をするようになりまし た。ハインツは嬉しそうにこう言います。「私は『自分はムスリムだ』と 言うことができるようになりまし た。」

すると、彼の同学年の でのイスラ ムに する 判が わっていきまし た。彼はこう言います。「その になると、ムスリムであることは格好良く、おしゃれでク ルなことになって いました。それは私に益々自信をつけまし た。それらの 化を助けた要因の一つは、 人的に全能者であるアッラ を知ることでし た。」

彼は一人でいる もイスラ ムについて し、クルア ンを少しずつ暗 しまし た。また、10代 当 の彼の家庭はムスリムだつたものの、必ずしもイスラ ムが 切に 践されてはいなかつ たことを打ち明けています。

そうしたことにも わらず、彼の心は全能者アッラ 、そしてイスラ ムに惹き付けられて いました。彼は生活の中での困 や に直面すると、短い礼 をし、心を全能者アッラ に注 ぎまし た。彼は言います。「私はアッラ へ 依することを学びまし た。」

ハインツは、ムスリムは全能者アッラ に して真 であり、 日クルア ンを朗 すべきだと信 じます。それにより、彼にとって困 なの10代の 期をくぐり ける助けとなつたから です。

自らの信仰心が高まるのと比例して、人々の彼に する も 化し、敬意を受けるようになったと彼は言います。

彼は、もし かが ずかしそうに振る舞い、羞 心に苛まれつつおどおどするのであれば、必然的に人々はそうした人物を一方に追いやるものだと言います。しかし、自分が真理の道にあると 信し、他人の思っていることを にしないのであれば、そうした自信を目にした人々は彼を尊敬するのだと言います。

ハインツは 信を持ってこう言います。「人々はそうした性格の人物に敬意を表するものです。人々は、自己を 立させている人物に惹かれるものです。」

私たちは、友人や所属するグル プなどに して借りがある ではなく、自分自身でいるべきだと彼は信じています。彼は、新改宗ムスリムが他人の真似ばかりしないよう忠言します。

在23 の彼は、一般的に欧米社会における彼と同世代の人々が 任感について、そして大人として何を求められているのかについて知ることに苦 していると感じています。彼らは特定の文化 に属していないため、あるいは彼らの文化は 乱に ち溢れた世俗主 に染まるよう り立てるため、彼らはそのことを できないでいるのだと彼は感じています。

彼は17 のときにイスラ ムを本格的に 践しようと 心したとき、イスラ ムは 格な行 を明 に提示するため、そうする助けになったと述べています。彼はそれに り、人 としての自分の役割を理解しようとしたと言います。

彼は徐々に自分には 任があることや、最 的には成人し、より良い人 になり、他者への思いやりを持たなければならないということを理解しました。イスラ ムがなければ人生の目的を完全に 失っていただろうと彼は述べています。

彼は自分に与えられたものに し、全能者アッラ に感 しています。イスラ ムによって人は成熟し、他者よりも 立つ存在になることができるのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/2230>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。